

## ICTの発達と人間性

4月29日と30日に開催されたG7香川・高松情報通信大臣会合が、成功裡に終了しました。本会合では、新たなICT（情報通信技術）の普及する社会における経済成長の推進やセキュリティの確保等につき活発な議論が行われ、成果として、「デジタル連結世界憲章」などが採択され、G7（主要7か国）としての力強いメッセージが高松から発出されました。

高度に発達したICTは、現代社会においてなくてはならない最重要技術の一つです。しかし、それはあくまでも人間の生活を豊かにするための手段にすぎないことを忘れてはなりません。昨年の12月に行われたG7学生ICTサミットin高松でも、各国の若者からスマホへの依存や中毒といった弊害が指摘され、「最も大切なのは、ICTの無限の可能性を理解したうえで、テクノロジーを扱う術を教え、リスクを理解させて、将来のICTと人類の共存を実り多いものとするのだ。」という意見が出されました。

高松出身の文壇の大御所、菊池寛が勝負事に関して次のような名言を残しています。「最善の技術には、努力次第で誰でも達し得る。それ以上の勝敗は、その人の性格、心術、覚悟、度胸によることが多いであろう」。技術を高めていくことは、重要なことであり、その努力を惜しむべきではないが、最後のところでものをいうのは、その人の人間性である、ということでしょう。

一方、ICTの進化のスピードは凄まじいものがあります。VR（仮想現実）技術はさまざまな分野で高度に応用されています。AI（人工知能）では、難しいとされていた囲碁でもプロ棋士を打ち負かすものが開発されました。また、IoT（もののインターネット）というものが登場し、センサーがデータを入力し、人為なくしてインターネット経由でモノとモノがコミュニケーションをするといったことが可能になっています。手段として用いる技術の領域を超えたところにまでICTが進んできたのかもしれませんが。

しかし、技術をコントロールする手を離してしまっはいけません。むしろ、どうすればICTの発達を人間性の回復に役立てることができるかといった視点が重要です。いみじくも学生ICTサミットの提言は、「The Future in Your Hands」と題されています。